

# T. ロウ・プライス US インカムファンド

追加型投信／海外／債券

日経新聞掲載名：USイン

第40作成期 2023年5月26日から2023年11月27日まで

第234期 決算日  
2023年6月26日

第235期 決算日  
2023年7月25日

第236期 決算日  
2023年8月25日

第237期 決算日  
2023年9月25日

第238期 決算日  
2023年10月25日

第239期 決算日  
2023年11月27日



## 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として投資適格債券とハイ・イールド債券へバランス運用を行うことにより、安定した収益の確保と信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。当作成期についても、運用方針に沿った運用を行いました。今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

 **三井住友DSアセットマネジメント**  
〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1  
<https://www.smd-am.co.jp>

## 当作成期の状況

基準価額(作成期末)	9,455円
純資産総額(作成期末)	5,660百万円
騰落率(当作成期)	+7.8%
分配金合計(当作成期)	150円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ  
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976  
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

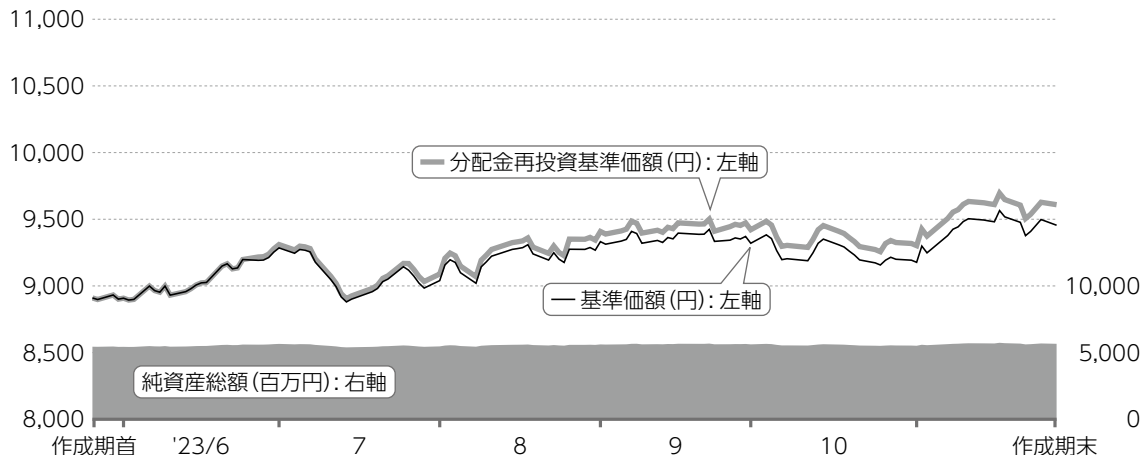
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

# 1 運用経過

基準価額等の推移について(2023年5月26日から2023年11月27日まで)

## 基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、作成期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

作成期首	8,910円
作成期末 (当作成期既払分配金150円(税引前))	9,455円
騰落率	+7.8% (分配金再投資ベース)

## 分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

### 基準価額の主な変動要因(2023年5月26日から2023年11月27日まで)

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として投資適格債券とハイ・イールド債券へバランス運用を行いました。

#### 上昇要因

- 米ドル高・円安となったこと  
ティー・ロー・プライス・ファンズ SICAV-USアグリゲート・ボンド・ファンド(Jdクラス)においては、
- 投資適格社債のポジションが、堅固な企業ファンダメンタルズ(業績、財務内容などの基礎的諸条件)、高い利払いにより、プラスリターンに寄与したこと。
- 現金への配分が、短期金利の上昇により高めの利息収入が寄与してプラスリターンとなったこと。
- CLO(ローン担保証券)とABS(資産担保証券)のポジションが、主にデュレーション(投資資金の平均回収期間:金利の変動による債券価格の感応度)が短いことでプラスリターンとなったこと。  
ティー・ロー・プライス・ファンズ SICAV-グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(Jdクラス)においては、
- リートセクターで、商業施設に投資するAmerican Finance Trustの保有がプラスに寄与したこと。同社の商業施設に入居するテナントの質が高く、新型コロナウイルスの感染が広がった中でも底堅い運営実績が示されました。
- 放送セクターで、ラジオ放送局を運営するiHeartMediaの保有がプラスに寄与したこと。保有する多くのデジタル資産が、十分な現金創出を生み出しました。
- スーパーマーケットセクターで、英国で冷凍食品に特化した食品小売りであるIceland Foodsの保有がプラスに寄与したこと。

### 下落要因

ティー・ロー・プライス・ファンズ SICAV-USアグリゲート・ボンド・ファンド(Jdクラス)においては、

- 米国債のポジションが、数年来の高水準にまで利回りが上昇して、マイナスリターンとなったこと。
- MBS(不動産担保証券)のポジションが、金利上昇と金利変動率の上昇により、マイナスリターンとなったこと。

ティー・ロー・プライス・ファンズ SICAV-グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(Jdクラス)においては、

- 通信セクターで、企業向けの通信サービスを提供するLumen Technologiesの保有がマイナスに作用したこと。
- 小売りセクターで、室内装飾品を販売するAt Home Groupの保有がマイナスに作用したこと。

## 1万口当たりの費用明細(2023年5月26日から2023年11月27日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	80円	0.864%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 期中の平均基準価額は9,218円です。
(投信会社)	(47)	(0.513)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(31)	(0.334)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.016)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数
(株式)	(-)	(-)	売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数
(株式)	(-)	(-)	有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	1	0.011	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.007)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(0)	(0.000)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
合計	81	0.874	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

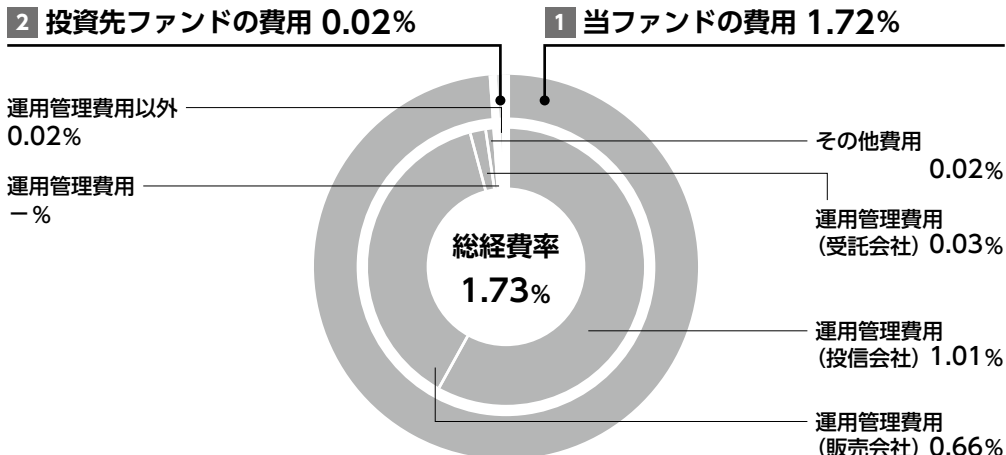
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



## 参考情報 総経費率(年率換算)



<b>総経費率(1 + 2)</b>	<b>1.73%</b>
<b>1 当ファンドの費用の比率</b>	<b>1.72%</b>
<b>2 投資先ファンドの運用管理費用の比率</b>	<b>-%</b>
<b>2 投資先ファンドの運用管理費用以外の比率</b>	<b>0.02%</b>

※**1**の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※**2**の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、シェアクラスの経費率です。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を、目論見書に記載している料率にもとづき区別しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。ただし、投資先ファンドでの運用管理費用は、当ファンドの運用委託報酬の中から負担しているため、開示すべき運用管理費用はありません。

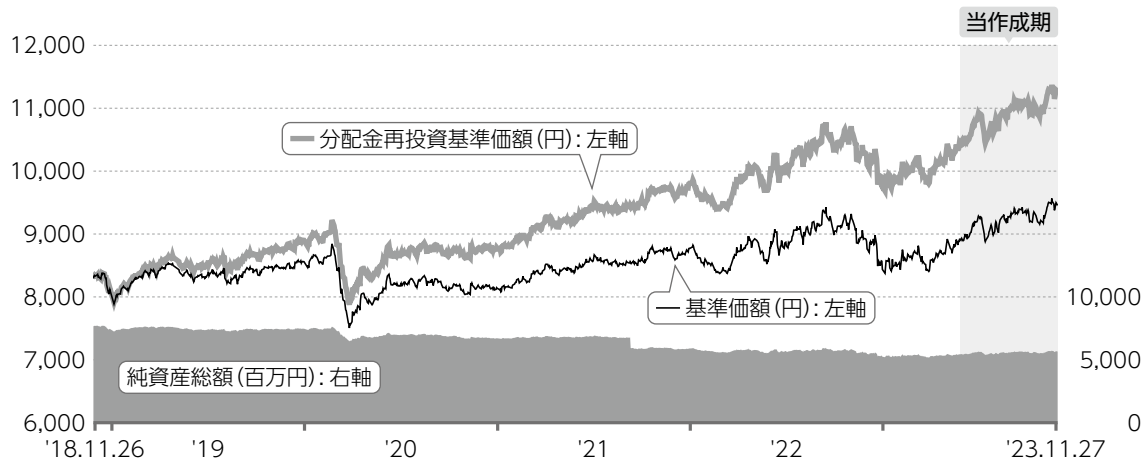
※**1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は1.73%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2018年11月26日から2023年11月27日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2018年11月26日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

		2018.11.26	2019.11.25	2020.11.25	2021.11.25	2022.11.25	2023.11.27
		決算日	決算日	決算日	決算日	決算日	決算日
基準価額	(円)	8,296	8,447	8,166	8,741	8,930	9,455
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	300	300	300	300	300
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	5.6	0.3	10.9	5.7	9.5
純資産総額	(百万円)	7,659	7,413	6,780	5,921	5,576	5,660

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境について(2023年5月26日から2023年11月27日まで)

米国投資適格債市場は下落、ハイ・イールド債券市場は上昇しました。また、為替市場は米ドル高・円安となりました。

### 投資適格債券市場

ブルームバーグ米国総合債券インデックスでみた米国投資適格債市場は、マイナスリターンとなりました。フェデラル・ファンド金利の目標は2001年3月以来の高水準となる5.25%~5.50%へと引き上げられ、米国債利回りは上昇しました。予想以上に底堅い景気と根強いインフレ圧力から、中央銀行が政策金利を「より高くより長く」調整する可能性が織り込まれました。加えて、フィッチ・レーティングスが米国債の格付けをAAAからAA+に格下げしたことや米国財務省による借入増加への懸念も、売り圧力に繋がりました。

10年米国債利回りは、10月に2007年後半以来となる一時5%をつけましたが、期末にはインフレ指標の軟化などから4.5%割れに低下しました。クレジットスプレッド(国債に対する上乗せ金利)は、社債セクターでは景気後退への懸念が遠のき縮小しましたが、MBSや証券化商品では概ね横ばいとなりました。

### ハイ・イールド債券市場

ハイ・イールド債券市場は上昇しました。経済指標は概ね予想を上回り、景気後退は避けられるだろうとの見方が広がりました。第2四半期のGDP(国内総生産)成長率は年率2.1%となり、年初からの景気減速は穏やかなものにとどまり、7月、8月の消費活動にも陰りは見られませんでした。ただし10月以降の中東で高まった地政学リスクは、質への逃避を引き起こし懸念材料となりました。

F RB(米連邦準備制度理事会)は7月に0.25%の利上げを実施して、フェデラル・ファンド金利の目標レンジを5.25%~5.50%としました。その後の記者会見でパウエルF RB議長は、金融引き締めは経済活動とインフレを抑制すると述べたほか、今後の利上げはデータ次第であることを強調しました。底堅い経済活動により、政策金利が「より高くより長く」調整されるのではないかという恐れが、投資家心理を若干冷やす材料となりました。



### 為替市場

為替市場では、米ドル高・円安となりました。米国において堅調な経済指標の発表が相次いだことからF R Bによる金融引き

締めめの長期化観測が広がった一方で、日銀が金融緩和を維持したことから、日米の金利差拡大などが意識され米ドル高・円安が進行しました。

ポートフォリオについて(2023年5月26日から2023年11月27日まで)

### 当ファンド

運用の基本方針に従い、当ファンドの指定投資信託証券である「ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-USアグリゲート・ボンド・ファンド(Jdクラス)」および「ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(Jdクラス)」へ投資を行いました。

指定投資信託証券の組み入れを高位に保ち、投資適格債券部分(ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-USアグリゲート・ボンド・ファンド(Jdクラス))とハイ・イールド債券部分(ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(Jdクラス))を概ね各50%程度の比率としました。

### ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-USアグリゲート・ ボンド・ファンド(Jdクラス)

米国債利回りの上昇が絶対リターンの重石となりました。相対リターンでは、ブルームバーグ米国総合インデックスをアンダーパフォームしました。銘柄選択がマイナスリターンに作用した一方で、業種配分はプラスに寄与し、金利のポジションは中立的な影響でした。運用期間末のデュレーション\*は、金利がレンジ圏での推移になるとの見通しから中立的に調整しました。セクター配分では、高い質の社債を新発で組入れる等により投資適格社債への配分を増やす一方で、CMB S(商業用不動産ローン担保証券)への配分を減らしました。金融引き締めめの経済への影響は今後出てくると見込んで、全体的に保守的な投資スタンスを継続しました。

\*デュレーションとは、「投資元本の平均的な回収期間」を表す指標で、単位は「年」で表示されます。また、「金利の変動に対する債券価格の変動性」の指標とし

## T. ロウ・プライス USインカムファンド

でも利用され、一般的にこの値が長い(大きい)ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

### ティール・ロウ・プライス・ファンズ S I C A V - グローバル・ ハイ・イールド・ボンド・ファンド (Jdクラス)

低格付け社債の上昇機会を生かしてCC格付けの社債を売却し、BB格付けの新規発行社債を組入れました。当該社債は7%から8%のクーポンがあり、手堅いリ

スク調整後リターンが狙えるとみています。

業種別にはエネルギーセクターを積み増しました。エネルギーセクターでは保守的な資本投下の時期を経て、米国陸上採掘業者の生産性低下と海上採掘油井からの採掘開始により、利益をあげやすい状況になったとみています。SeadrillやTransoceanといった採掘サービス企業が恩恵を受けやすいとみて購入しました。現在、低価格で採掘できるシェール原油は意外と早くに枯渇し、米国でのシェール革命による原油価格の下落は昔の話となったようです。

#### ベンチマークとの差異について(2023年5月26日から2023年11月27日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

#### 分配金について(2023年5月26日から2023年11月27日まで)

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、以下の通りといたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

(単位:円、1万口当たり、税引前)

項目	第234期	第235期	第236期	第237期	第238期	第239期
当期分配金	25	25	25	25	25	25
(対基準価額比率)	(0.27%)	(0.27%)	(0.27%)	(0.27%)	(0.27%)	(0.26%)
当期の収益	25	25	25	25	25	25
当期の収益以外	-	-	-	-	-	-
翌期繰越分配対象額	497	499	510	524	531	548

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

## 2 今後の運用方針

### 当ファンド

引き続き、運用の基本方針に従い、投資信託証券への投資を通じて、主として投資適格債券とハイ・イールド債券へバランス運用を行うことにより、安定した収益の確保と信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

### ティー・ロウ・プライス・ファンズ S I C A V - U S アグリゲート・ ボンド・ファンド (J d クラス)

足元での景気指標の軟化を受けて、F R B による金融引き締めは終わったとみていますが、市場が期待しているような来年の利下げはないだろうと予想しています。経済データがより顕著に悪化するまで金利はレンジ圏での推移になると予想しており、デュレーションは中立的に調整しています。イールドカーブ(利回り曲線)戦略では、5年と30年の国債利回りスティープ化から利益が出るポジションをとっています。当該戦略は、金利の方向性が出なくても利益を獲得しやすいとみています。

クレジット市場では、市場価格の歪みをモニターしながらアナリストによる個別銘柄選択のアイデアを生かしてきましたが、金融引き締めの経済への効果が顕在化してくることを警戒して、引き続き守りの投資

スタンスを維持していきます。

### ティー・ロウ・プライス・ファンズ S I C A V - グローバル・ ハイ・イールド・ボンド・ファンド (J d クラス)

厳しいマクロ経済環境と金融環境の引き締まりの結果、デフォルト(債務不履行)率は中短期的に正常化を続けて、長期の平均的な水準である3%~4%まで上昇すると見込んでいます。しかしながら、ハイ・イールド債券市場のファンダメンタルズ(基礎的条件)状況、しっかりした発行企業の信用力、市場に見いだされる投資価値を考えると、厳しいマクロ環境への懸念は部分的には緩和されると見えています。過去に目を向けると、ハイ・イールド債券市場の単価や利回りが現在のような水準に達した後は、ハイ・イールド債券市場は良好なリターンを示す傾向があり、中期的なパフォーマンスにも当てはまりそうです。

従来通り、当ファンドは高いインカム収入を目指しつつ、ハイ・イールド債券市場につきものの高いボラティリティ(価格変動性)の抑制に努めます。これまでさまざまな市場環境の下で好リターンを獲得してきた、徹底したクレジットリサーチとリスクを意識した運用を継続していく方針です。

## 3 お知らせ

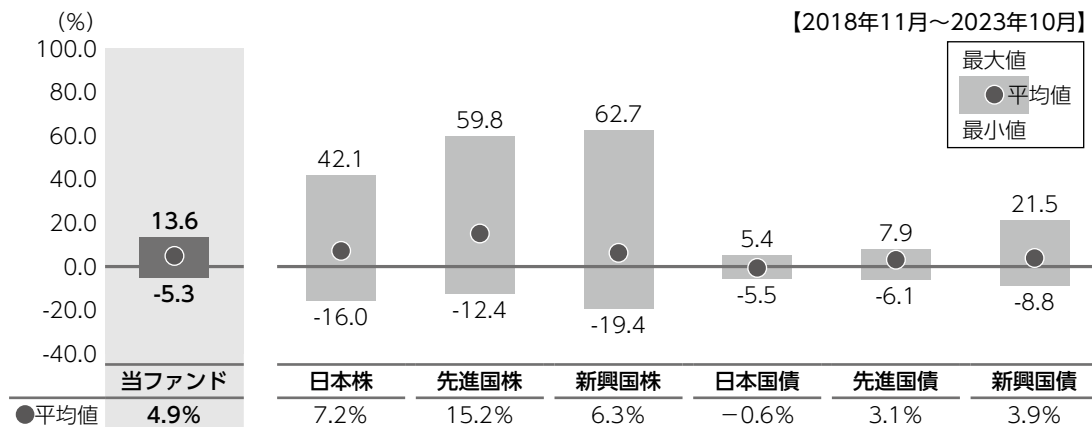
### 約款変更について

該当事項はございません。

## 4 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	無期限(設定日：2003年12月5日)
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として投資適格債券とハイ・イールド債券へバランス運用を行うことにより、安定した収益の確保と信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 <b>ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-USアグリゲート・ボンド・ファンド(Jdクラス)</b> 米ドル建ての投資適格債券 <b>ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(Jdクラス)</b> ハイ・イールド債券
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■投資信託証券への投資を通じて、主として米ドル建ての投資適格債券およびハイ・イールド債券へ実質的に投資します。</li> <li>■投資適格債券部分とハイ・イールド債券部分への投資配分は、原則として概ね各50%程度を基本とします。</li> <li>■外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。</li> <li>■運用の指図にかかる権限をティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドへ委託します。</li> </ul>
組入制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外貨建資産への投資割合には制限を設けません。</li> <li>■毎月25日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、分配を行います。</li> <li>■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。</li> </ul>
分配方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。</li> </ul> <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

## 5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

### 各資産クラスの指数

<b>日本株</b>	<b>TOPIX (東証株価指数、配当込み)</b> 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
<b>先進国株</b>	<b>MSCI コクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース)</b> MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
<b>新興国株</b>	<b>MSCI エマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース)</b> MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
<b>日本国債</b>	<b>NOMURA-BPI (国債)</b> 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
<b>先進国債</b>	<b>FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)</b> FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
<b>新興国債</b>	<b>JPMオルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)</b> J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

## 6 当ファンドのデータ

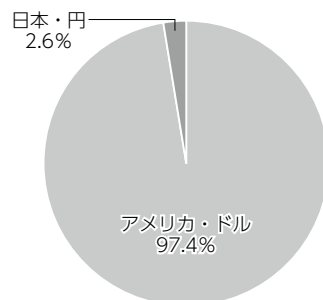
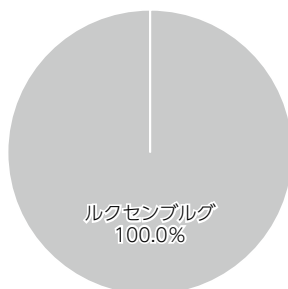
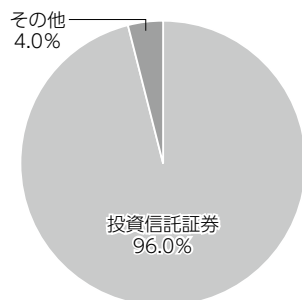
### 当ファンドの組入資産の内容(2023年11月27日)

#### 組入れファンド等

銘柄名	組入比率
ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(Jdクラス)	48.1%
ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-USアグリゲート・ボンド・ファンド(Jdクラス)	47.9%
コールローン等、その他	4.0%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

#### 資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

#### 純資産等

項目		第234期末	第235期末	第236期末	第237期末	第238期末	第239期末
		2023年6月26日	2023年7月25日	2023年8月25日	2023年9月25日	2023年10月25日	2023年11月27日
純資産総額	(円)	5,595,734,281	5,520,761,273	5,581,119,766	5,628,021,948	5,528,056,903	5,660,181,714
受益権総口数	(口)	6,087,678,078	6,054,636,123	6,017,168,296	6,023,555,442	6,013,357,349	5,986,189,637
1万口当たり基準価額	(円)	9,192	9,118	9,275	9,343	9,193	9,455

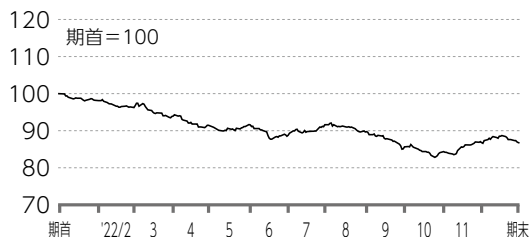
※当作成期における、追加設定元本額は50,769,542円、解約元本額は172,433,594円です。

組入上位ファンドの概要

ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-USアグリゲート・ボンド・ファンド(Jdクラス)  
(2022年1月1日~2022年12月31日)

基準価額の推移以外は投資ファンドを含むシェアクラスで構成された「ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-USアグリゲート・ボンド・ファンド」の情報で、ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドから提供されたデータに基づき作成しています。

基準価額(アメリカ・ドル建て)の推移



※分配金再投資ベース

基準価額(円換算)の推移



※分配金再投資ベース

※アメリカ・ドル建ての基準価額を日本の対顧客電信売買相場の仲値で邦貨換算しています。

1万口当たりの費用明細

単位当たり費用明細は入手できるデータがないため記載していません。



組入上位銘柄

(基準日：2022年12月31日)

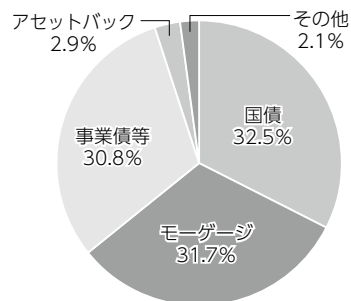
	銘柄名	組入比率
1	CITIGROUP	0.4%
2	T-MOBILE USA	0.4%
3	GOLDMAN SACHS	0.4%
4	BANCO SANTANDER	0.4%
5	WELLS FARGO	0.3%
6	BANK OF AMERICA	0.3%
7	BANK OF AMERICA	0.3%
8	CENTENE	0.3%
9	BRIXMOR OPERATING PARTNERSHIP	0.3%
10	WELLS FARGO	0.3%
全銘柄数		974銘柄

※国債および政府機関債を除きます。

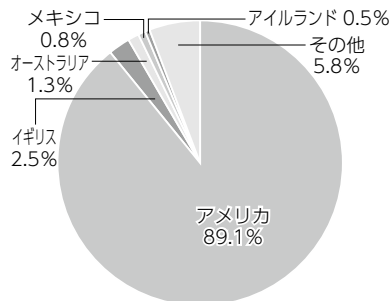
※比率は、純資産総額に対する割合です。

※全銘柄の情報については、運用報告書(全体版)に記載しています。

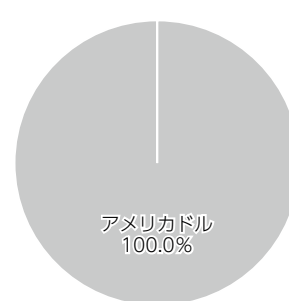
資産別配分(純資産総額比)



国別配分(純資産総額比)



通貨別配分(ポートフォリオ比)



※国別配分は原則発行国もしくは投資国を表示しています。

※基準日は2022年12月31日です。

ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(Jdクラス)  
(2022年1月1日~2022年12月31日)

基準価額の推移以外は投資ファンドを含むシェアクラスで構成された「ティー・ロウ・プライス・ファンズ SICAV-グローバル・ハイ・イールド・ボンド・ファンド」の情報で、ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドから提供されたデータに基づき作成しています。

基準価額(アメリカ・ドル建て)の推移



※分配金再投資ベース

基準価額(円換算)の推移



※分配金再投資ベース

※アメリカ・ドル建ての基準価額を日本の対顧客電信売買相場の仲値で邦貨換算しています。

1万口当たりの費用明細

単位当たり費用明細は入手できるデータがないため記載していません。

組入上位銘柄

(基準日：2022年12月31日)

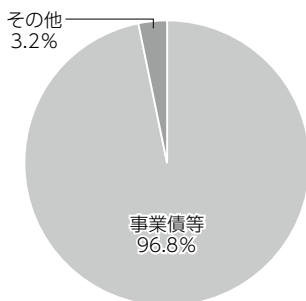
	銘柄名	組入比率
1	Rivian Holdings Llc/rivian Llc/rivian Automotive Llc	1.4%
2	Ford Motor	1.4%
3	Cco Holdings Llc / Cco Holdings Capital	1.3%
4	Iheartcommunications	1.2%
5	Transdigm	0.9%
6	Entegris Escrow	0.9%
7	American Airlines	0.9%
8	American Airlines Inc/aadvantage Loyalty Ip	0.9%
9	Central Parent Inc / Cdk Global	0.8%
10	Stagwell Global Llc	0.7%
	全銘柄数	363銘柄

※国債および政府機関債を除きます。

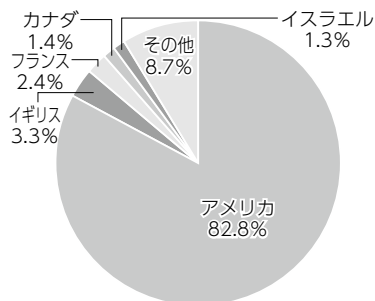
※比率は、純資産総額に対する割合です。

※全銘柄の情報については、運用報告書(全体版)に記載しています。

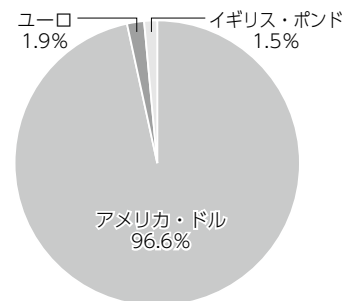
資産別配分(純資産総額比)



国別配分(純資産総額比)



通貨別配分(ポートフォリオ比)



※国別配分は原則発行国もしくは投資国を表示しています。

※基準日は2022年12月31日です。